

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100618		
法人名	社会福祉法人 広和会		
事業所名	グループホーム ほのぼの青葉	ユニット名	壱番館
所在地	宮崎市宮崎駅東三丁目9番10		
自己評価作成日	平成24年6月24日	評価結果市町村受理日	平成24年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100618&amp;SCD=320&amp;PCD=45">http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100618&amp;SCD=320&amp;PCD=45</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成24年7月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

都市型の施設であるが、室内が広く明るい空間が提供できている。施設が4階にあるので、お天気の良い日は、屋内運動場に出て、風を感じる事もできる。敷地内のにぎきクリニックが開院しており、内科・整形外科がスムーズに受診出来る。アクセスが良く、ご家族様の来園が多い。特養等との併設による人的・物的協力体制が図れる。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じ社会福祉法人が運営するデイサービスが1階に、2階～3階には介護老人福祉施設等があり、4階に2ユニットからなるグループホームがある。隣接して系列のクリニックがあり、福祉と医療の連携を目指して運営されている。まだ開設してまもないホームであるが、自治会に加入し、出前講座の開催や1階の地域交流センターを利用して、津波図上訓練、ボランティアの受け入れなど、地域との交流を積極的に推進している。また、管理者は、人材育成に力を入れ、法人内・外の研修に計画的に参加させ、若い人材が着実に育ちつつある。利用者は、職員の温かい心のこもったケアに支えられ、明るく元気に暮らしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を施設内に掲示、職員は確認し、実践につなげている。		理念を朝のミーティングや職員会議で確認・共有して、福祉と医療の連携および地域を重視した理念を、実践に生かす取組を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域に根差した取り組みをしている。花見、散歩、公共施設見学等を行い、学地域の方への認知症研修を実施。		自治会に加入し、地域住民を対象とした出前講座を開催したり、1階の地域交流センターで自治会に協力し、地震対応図上訓練等の様々な行事を開催して、交流を深めている。ボランティアも多く受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内に地域交流センターを設けており、地域の方々の利用が可能になっている。認知症を抱えている入居者のへの取り組みを伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、行事の取り組み状況等を報告している。内容についての質問もあり、地域の方々が施設に感じている疑問を率直に聞く事が出来、関心の高さが感じられている。		まだ開設してまもないホームであるが、運営推進会議を軌道に乗せている。会議では、夜間を想定した避難訓練計画や自治会が主催する夕涼み会への参加などの話し合いがあり、具体的に検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設見学等の連絡を図っており、事故報告等について、連携を図っている。		市の担当者とは、運営状況の報告や課題等について、いつでも相談できる関係を築いている。担当者が、時々施設見学に訪れて、交流を深めている。また、災害時の避難場所として、宮崎市と福祉避難場所の締結をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止は、職員も十分に理解出来ている。建物の構造上、離脱後の転落防止の意味から、玄関の施錠を行っているが、解錠できる仕組みになっている。身体拘束の原則に則り、実施していない。		職員は、法人内・外の身体拘束に関する研修に参加して、身体拘束の弊害を十分理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は、利用者も家族も簡単に解除できる仕組みとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で、お互いに気をつけ合う事を毎回話し合い、注意し合える関係づくりに努め、全員で虐待行為に至らないように実践している。研修会の実施。			

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が1名おられ、家族様から実情を聞く機会がある。今後職員は、研修等に参加し、制度の理解を深めていき、活用につなげたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、職員との面接や施設内見学を実施し、十分な説明を行っている。家族様の不安や疑問に対応できるよう、話し合いの場を設けている。その為の面談室も設けている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、外出行事等で、居室担当者が家族様とのコミュニケーションをとるように心がけている。意見箱を設置し、それらの案内も行っている。		家族の来訪時に、できるだけ声をかけ、要望や不満等はないか話し合いをしている。意見箱の要望等についても、丁寧に回答して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を通し、職員の意見や要望を確認し、全体リーダー会議や起案で実践し、反映している。		毎月職員会議を開き、職員の意見や要望を引き出す努力をしている。また、法人全体のリーダー会議に出された意見や提案等を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同上。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に、年1回は参加できるように努めている。また、法人内研修も実施されており、参加を促している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、今回初めて総会に参加する予定。			

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面接等で、本人様と良く話し合い、本人様の不安を感じられる場面等を想定し、その対応を話し合い、実践につなげていく。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や施設見学时に相談や話し合いを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本当に入所する事が良いのかを居宅支援事業所のケアマネや家族様と話をし、意見交換を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食器洗い等、「出来る事は私たちもしますよ」と入居者様より申し出て下さるので、日常の行為と一緒に取り組む機会が増えている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の家族様の参加率も高いので、関係は良好と思われる。家族様の家庭環境もあるので、施設側から入居者の生活状況を伝える努力をし、家族様にも施設での様子が理解して頂けるように努力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出に関しては、家族様の協力を得て、付き添っていただくように依頼している。	知人や友人がいつでも気軽に来訪して、ゆっくりと過ごしてもらえるように、喫茶、談話コーナーが設置されている。また、家族の協力を得て、買い物などに出かけることがあり、なじみの関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い人間関係を築いておられる方同士で、お手伝いして下さる事があるので、職員も一緒に取り組んでいる。実施出来なくても、その輪の中に入り、他者とのコミュニケーションが取れるよう職員が働きかけている。			

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時の相談、退院後の相談を受けた事がある。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との良質な関係が築けてきているので、今後、介護計画に生かしていく。		利用者に寄り添ったケアの提供の中から、思いや暮らしの希望を理解するためのアプローチを一つひとつ丁寧に行い、把握に努めている。家族や関係者からの情報も活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様や家族様から得た情報については記録を残し、情報の共有をしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施出来た事、発言等を記録に残し、情報を各職員が確認するようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員の気付きにより、それらを介護計画に反映させている段階である。		利用者や家族、関係者と話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。モニタリングは毎月実施し、介護計画は3か月に1回見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録方法を見直しながら、介護計画の見直しにつなげられるように記入を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様は、施設利用後も、いろいろな本人様を取り巻く環境でも悩まれる事があるので、お話を聞く事がある。			

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共施設を活用して、外出行事で地域の自然に触れる機会を設けている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内にクリニックが開院していることから、気軽に病院受診が出来、家族様にも安心して頂いている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	熱発時、急変時は、法人内看護師にもすぐに連絡を出来る状態にしている、受診も行えるようになっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様を通して、連絡を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設し、約1年が経過しようとしているが、現在は重度化の状況にない事もあり、今後可能性を考え、検討していく。		重度化した場合や終末期のあり方については、利用開始時に、看取りに関する指針を説明して、同意を得ている。医療連携体制ができており、利用者や家族と十分話し合い、可能な限り支援する方針となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で対応している計画を実施していきたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員間で、避難場の確認は実施している。施設全体で計画され、それに則り実施。			

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念の通り、人権尊重を旨とし、取り組んでいる。実態的には、常に第三者が会話を聞いている事を意識して、声掛けを行うように、全員で取り組んでいる。		利用者一人ひとりの人格を尊重し、人前で恥ずかしい思いをさせないように、目立たない言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択しやすい言葉かけの工夫を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴について、気分に合わせて実施。レクリエーションも、本人様の希望で参加を決めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の入れ替えは、家族に協力依頼している。お気に入りの衣類やアクセサリを準備頂いている。パーマ、染髪の支援も行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	前述のとおり、食器の準備や片づけを手伝って下さる。また、ソフト食の提供をする等、食べやすい状態を作っている。		利用者の好みに配慮し、新鮮な食材をとり入れたメニューになっている。利用者と職員が、一緒に食事の準備や後片づけをし、和やかな雰囲気の中で、職員のサポートを受けながら、利用者は楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量は記録をつけ、一日の合計が分かるようにして、不足が出ないようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	要介助者は、付き添いお手伝いしている。自己にて実施される方は声掛けし、毎食後、実施できるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた誘導を行う。日中はトイレでの排泄を目指している。		排せつチェック表を活用して、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、できるだけトイレで排せつできるよう、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を記入し、十分な水分摂取が出来るようにしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を伝えておくと、本人様からの拒否が少なく、概ね実施出来ている。		入浴は週3回としているが、希望があればできるだけ希望に沿えるように、柔軟に支援している。入浴を拒む人には、タイミングの良い対応や言葉かけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の方が数名おられる一方、昼食後は傾眠される方も多いため、お休みされる方もある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の一覧表は、確認できるようになっているので、副作用についての記述も掲載されていて、確認が出来る。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな飲み物、得意な踊り等、楽しんで頂いている。家事は、入居者様でも得意な方が複数おられ、協力して頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	前述のとおり、屋外運動場の活用やご家族様が外出に連れ出して下さる事もある。事前に連絡を受けている事も多いので、本人様にお伝えしている。		屋外の運動場や家族の協力を得て、できるだけ日常的に戸外に出かけられるように努めている。公園に花見に出かけることもある。	短時間でも戸外に出かけて、気分転換や散歩ができるように、実習生の受け入れ時や家族、ボランティア等の協力を得て、日常的な外出支援が行われることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			壱番館		実践状況	
			実践状況		実践状況	
					次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、施設に持ち込まれていない方が多い。所持されている方は、時々ジュースを購入される事がある。購入時は、職員が付き添い、行う。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけて、お話を頂くことがあったが、3回程度である。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内温度は、入居者様に聞いて、空調などを使用し、適温にしている。食堂は、清潔を保つように一日2回程度、掃除を行う。		共用の空間は、季節の花や鉢植えが要所に飾られ、畳のコーナーもあり、利用者が落ち着いてゆったりと過ごせるように工夫されている。採光や温湿管理、換気等にも配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室をうまく活用して頂いている。入居者様同士で招き入れる事もある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鉢植えを置かれたり、ソファーを持ち込まれ、ゆっくりできる空間になっている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ソファーの位置やテーブルの位置を変更するなどしている。			